

事業名

あかぎ無限大キャンプ

団体名

独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立赤城青少年交流の家

背景・課題

現代社会は、グローバル化や情報化、少子高齢化など、変化の激しい社会と言える。現代に生きる人々においても、社会の変化に伴い、インターネット等を通じた疑似的・間接的な体験が増加し、人やもの、自然に直接触れるという体験活動の機会が減少している。このような中で、個人や社会の多様性を尊重しつつ、他者と協働して課題解決を行うことができる人材が求められている。

一般的な小学校高学年は、自分のことを客観的にとらえられるようになり、自己肯定感を持ち始めるが、反面、自己に対する劣等感を持ちやすいという発達段階にある。また、規則を理解して、集団活動に主体的に関与したり、遊びなどでは自分たちで決まりを作るようになる時期でもある。このような時期には、自他の尊重や他者への思いやりなどの涵養、集団における役割の自覚や主体的な責任意識の育成が求められている。

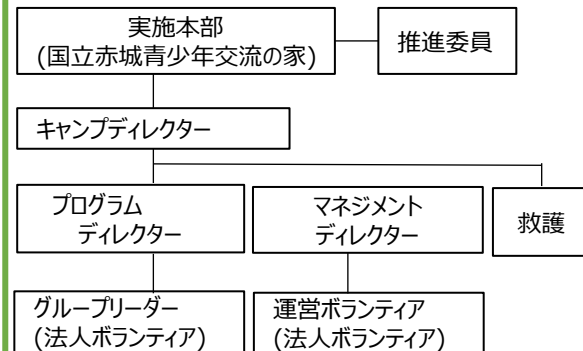
さらに、現在の子供たちは、肥満・痩身、生活習慣の乱れ、アレルギー疾患の増加など、多様な課題が生じている。多様化・複雑化している健康課題に対して、生涯にわたって健康な生活を送るために、健康の保持増進が求められている。

事業趣旨

- ① 協働的な体験プログラム（野外炊事、赤城山登山、レクリエーション等）を通して、多様性を認め合える意識の醸成を図る。
- ② 長期自然体験活動を通して、健康の保持増進（近視進行の抑制）を図る。

事業の内容

<実施にかかる体制>



<テーマに基づいた試行、検証等の方法>

- 国立赤城青少年交流の家実施のふりかえりシートから見る参加者の変容
- ・キャンプを4つのステージに分けて実施し、毎日「ふりかえり」の時間を設定

- 社会情動的スキルの変容

- ・事前、事後、1か月後のアンケート
- 屋外活動の眼への影響の調査
- ・本キャンプ(2回)、事後キャンプでの眼の検査

<安全対策>

- 熱中症対策

- ・ゆとりあるプログラム編成を行い、休憩時間をとれる日程調整をした。

- 登山時の安全対策

- ・登山実施前に登山ミーティングを行い、参加者とスタッフ全員でコースや危険箇所を確認した。

- 緊急対応時フローチャート

- ・緊急対応時フローチャートを作成し、ボランティア研修の際にスタッフ間で共通理解を図るとともに、事前・本・事後キャンプの際には、スタッフミーティングの中で確認するようになった。

<成果の普及に関する実績>

- 8月12日 上毛新聞 16面に掲載
- 1月28日 報告書完成・発送・ホームページ掲載

発送先 群馬県内教育委員会 青少年教育施設 群馬県外教育委員会
国立国会図書館 社会教育実践研究センター
機構施設 推進委員

- 2月18日 栃木県内青少年施設視察において報告書配布及び説明
- 2月20日 茨城県教育委員会視察において報告書配布及び説明



【赤城山登山】



【あかぎアドベンチャープログラム】

成果及び今後の展開

<成果>

- ① 多様性を認め合える意識の醸成に対する成果
- ・長期自然体験によって参加者の忍耐力が向上したことが明らかとなった。
(國學院大学人間開発学部との連携)
- ・協働的な自然体験活動や活動を通して話し合いを行うことは、多様性を認め合いながら、対話や行動をしようとする意識の醸成に効果的であることが分かった。
(国立赤城青少年交流の家)

- ② 健康の保持増進（近視進行の抑制）に対する成果
- ・長期自然体験活動に参加することで、脈絡膜厚が有意に厚くなることが分かった。
(慶應義塾大学医学部眼科学教室、株式会社坪田ラボ、近視予防フォーラムとの連携)

<今後の展開>

3年間の研究の結果、事業の趣旨に対して協働的な体験プログラムは一定の効果が見られた（國學院大学人間開発学部連携・国立赤城青少年交流の家・慶應義塾大学医学部眼科学教室、株式会社坪田ラボ、近視予防フォーラムとの連携）。今後は、「あかぎ無限大キャンプ」で得られた成果である、

- ・ステージを4つに分けたプログラムデザイン
- ・計画的な「話し合い」
- ・参加者の変容を見取る取組
- ・話し合いに必要感をもたせる取組
- ・開発したプログラム

等を生かし、趣旨を現代的な課題やプログラム、積み重ねてきた成果と課題から多様性を深めるなどの観点から検討し、さらなる魅力溢れるキャンプに繋げていく予定である。